

## 会 議 記 録

高松市附属機関等の会議の公開及び委員の公募に関する指針の規定により、次のとおり会議記録を公開します。

会 議 名	令和2年度第1回高松市生涯学習センター等運営協議会
開 催 日 時	令和2年7月14日（火）午後1時30分～午後3時00分
開 催 場 所	高松市生涯学習センター 大研修室
議 題	(1) 令和元年度高松市生涯学習センター等の事業実績について (2) 令和2年度高松市生涯学習センター等の事業計画について
公 開 の 区 分	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 一部公開 <input type="checkbox"/> 非公開
上 記 理 由	—
出 席 委 員	8人
	田中委員、藤井（雄）委員、後藤委員、有賀委員、岩本委員、宇都宮委員、武岡委員、長尾委員
傍 聴 者	0人（定員5人）
担当課及び連絡先	生涯学習課 生涯学習センター 087-811-6222

### 会議の経過及び結果

#### 《次第》

- 1 開会
- 2 教育局長あいさつ
- 3 委員等紹介
- 4 会長及び副館長の互選について
- 5 会長あいさつ
- 6 議事
  - (1) 令和元年度高松市生涯学習センター等の事業実績について
  - (2) 令和2年度高松市生涯学習センター等の事業計画について
- 7 報告事項
 

令和元年度まなびCANアンケートの結果について
- 8 閉会

#### 《協議の経過及び結果》

事務局から、議事（1）及び（2）並びに報告事項について、説明を行った。

#### （委員）

年間稼働率について、平成29年度から大きく平均は変わらないと説明があり、多目的ホールや小研修室、大研修室については、健闘していることがわかるが、OA実習室の稼働率が低いために平均を引き下げてしまっているのではないかと。OA実習室は、現在、どのように活用されており、今後どのように活用していこうと考えているのか。

(事務局)

0A 実習室には、デスクトップタイプのパソコンが常時机上にあるため用途が限られており、普段の会議等には使いにくい状況である。現在の活用方法としては、例えば、子どものためのパソコン教室や青色申告会などである。今後、リース期間が終了した際には、ノートパソコンを借りる等して通常の会議にも対応できるよう工夫していきたい。

(委員)

コミュニティセンターで講座をするに当たり、講師を探すのが大変などの声もよく聞くが、そのようなところは、連携できているのか。

(事務局)

各コミュニティセンターは市内で7ブロック化されており、ブロック毎にリーダー養成講座などを実施している。また、各コミュニティセンターの職員を生涯学習推進員に委嘱し、当センターで定期的に研修を行っており、各地域とネットワーク化しながら、情報共有や連携に努めている。

(委員)

令和2年度生涯学習センター活性化策の中で、ソーシャルメディアの活用が挙げられているが、地域 SNS マチマチを利用する理由はなにか。ツイッターやインスタグラムなどのほうが利用者数も多く、より多くの方に、知っていただけるのではないか。

(事務局)

今年度から、「広報高松」が月に1回の発行に変わり、全戸配布になった。月に2回発行されていたものが、月に1回となると、掲載できる情報量が減るため、それを補完するために地域 SNS マチマチで発信することにした。

また、ツイッター等の SNS は利用者も増加しており無料で利用できるため非常に便利なものでもあるが、一方で、現在、本市の公式ツイッター等は、フォロワー数が4000程度という状況である。これらの SNS を有効に活用するためには、市民の人にとって有益な情報を、高頻度で発信する必要がある、そのためには、専用の職員を配置するなどの対応が求められる。また、SNS が何年も更新されないなどの問題があるため、本市では、アカウント作成に審査が必要であるなどその活用にはまだ課題が多い現状がある。

(委員)

新型コロナウイルス対策はどのように行っているか。

(事務局)

まず、簡単に経緯を説明すると、2月28日から、当センターの主催講座を中止し、4月21日から5月18日までの間は、臨時休館としていた。職員も6月からは在宅勤務なども取り入れながら勤務している状況である。

対策としては、メディアでも言われている通り、三密を避けることや、発熱のある方の来館自粛、マスクの着用、アルコールでの消毒等を要請している。そのほか、1時間に1回の換気や、貸館利用後の机等のアルコール除菌を徹底している。

また、新しい生活様式として、オンラインでの生涯学習事業についても、試験的に行って

みようと思う。

(委員)

最近は、コロナウイルスの影響で、子どもたちは、基礎的な部分の学習にとどまり、学習を深めることや、楽しく学ぶことができていない。だからこそ、生涯学習センターの夏休み講座では、楽しく学べる講座を開催してほしいと思う。

(事務局)

当センターにおいては、様々な学習機会を提供するため、講義形式の座学以外にも、街歩きのように屋外で行うものや実験・工作など体験型の講座も行ってきた。今後も楽しく学べる講座を積極的に開催していきたい。

(委員)

生涯学習センターは、近くのコミュニティセンターよりも身近な講座がたくさんあり、自分もよく利用している一人である。こんな講座があったらいいのと思う講座が、実は開かれていたことに驚いた。近くに住んでいても、センターのことを知らない人も多い。アンケート結果を見ると、センターを知ったきっかけで圧倒的に多いのが、「知人・友人からの紹介」である。SNSも大事であるが、60～80代の人には、口コミが大切なのだと思った。また、商店街との連携講座を通して、商店街の活性化も期待できるのではないか。それから、同じような講座を市の他の施設でもやっていることがあり、このあたりは連携した取組ができるとよいのではないか。

(事務局)

今、実施している講座は、企業や団体、商店街などとの連携事業が重要になってきており、講座の数も増える状況にある。当センターが片原町東商店街に面している地理的な条件から、商店街組合と高等学校の書道パフォーマンスなどを開催したり、商店街のお店の方を講師に迎え、紅茶や珈琲講座を実施している。多様なニーズに応えるため、様々な企業と連携し、多種多様な講座展開を行っていきたい。

(委員)

大切なのは、生涯学習センターで学んだことを持ち帰って活用することである。家で学ぶことができたらもっと良いと思う。情報発信を行ってほしい。

(事務局)

他の施設との連携については、予算の壁、組織の壁などいわゆるタテ割りの問題があり、行政が苦手としている点であると思う。しかしながら、他都市では、財政難という事情はあるものの、施設間の連携に取り組んでいる事例が見られるようになっており、今後研究してまいりたい。

また、SNSの活用について補足すると、武雄市図書館のように利用者がSNSで施設の魅力を発信したことで利用者が増大した事例もある。施設や講座の利用者にSNSで発信してもらえるような取組も検討する必要があると考える。

(委員) 引き続き、利用者数増加のために出来ることはないか一緒に考えていきたいと思う。